

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

せんしゅう にっぽん かくち おおあめ こうずい ひがい あまぐも れつ
先週は日本各地で大雨と洪水による被害がありました。このごろは雨雲が列になってあらわれ「これまでに

けいけん きろくてき おおあめ せんじょうこうすいたい ねんほどまえ みみ
経験したことがない」「記録的」な大雨をふらせるようすを「線状降水帯」とよびます。20年程前からよく耳

にするようになった 新しい言葉に、世界の気候が変わってきていることを実感させられます。救えなかった

いのち とうと おも こころ いた いま わたし いのち しぜんさいがい
命の尊さを思い、心が痛みます。今や、私たちの命はウィルスだけではなく、自然災害にもおびえてさせ

られていることを感じずにいられませんでした。

ところで、命を「いのち」という音で表現するのは何故なのでしょう。日本語は本当に美しい言葉です。一

つひとつの音に意味があります。「い」は命、「の」は偉大で重みのあるもの、「ち」は積極性や存在感を表

すといわれています。前向きなエネルギーにあふれ、尊く価値あるものが「いのち」ということなのかしら、と

勝手に解釈してみたりします。

そこで今日は、命を意味する「い」の美しい響きを伝えてくれる堤江実さんの「ことだま」という詩を紹介

します。

いの 祈りのい いや 癒しのい いのちのい

いっしょうけんめいのい いっぱいのい

いつも いつでも いつまでものい

い 生きるのい

あさ いの 朝 祈りながら おも 思う

きょう いちにち 今日 一日

こんなふうに いきていきたい

ことば ふ し ぎ ちから やど ほっ ことば けっか あらわ おおむかし ひと
言葉には不思議な力が宿っており、発した言葉どおりの結果を現すということを、大昔の人は「ことだま」

と表現しました。旧約聖書では神様の言葉はその通りになると考えられています。「光あれ」と神様がおつ

しゃれば、光が現れるのです。文化の違いを超えて、言葉にはやはり力があるのでしょうか。そして、日本人

は単純な一つひとつの音にも、特別な力を感じてきたのです。

こんしゅう わたし つか ことば おん ちゅうい
今週、私たちの使う言葉の音に、ちょっと注意してみましょう。

その音から力をいただいて、いい一週間を過ごせますように。

わらやまはなたさかあ
り みひにちしきい
をるゆむふめつすくう
れ めへねてせけえ
んろよもほのとそこお